

## 第5回日本癌病態治療研究会の 開催にあたって



浜松医科大学第二外科 馬場正三

第5回日本癌病態治療研究会を浜松でお世話させていただくことになりましたことを、教室員とともに大変光栄に存じております。

最近の分子生物学の進歩は、基礎・臨床の学際的研究によるところが大きく、その必要性はますます増大してきていると感じます。本研究会は、癌の病態・治療に関する基礎的ならびに臨床的研究の接点を見いだすことを目標の一つとして発足した研究会であり、この目的を達成するにはかっこの研究会といえると思います。基礎研究の成果が臨床の場でどれだけ feed back できるか、逆に、臨床研究が基礎的観点からどれだけ裏付けられるかなど、研究会も5回目を迎え、ますます実りのあるものに発展してきています。

遺伝子の解明が進むにつれ癌の本態が明らかにされつつありますが、一方、癌病態の複雑さに改めて驚かされます。癌の研究は寿命を含め生命現象そのものの研究になってきたように思います。

今回の研究会においては、対癌戦略のかなめとも考えられる“癌抑制遺伝子とアポトーシス”について、高橋 玲先生からの特別講演が予定されています。また、一般演題から癌病態に則した治療法の開発のなかからシンポジウム形式でプログラムを組みました。

そのほか、癌の予後因子、化学予防、遺伝子、診断・治療と予後、さらには日常臨床のなかで遭遇した興味ある症例の報告をも含めて、広く癌の病態・治療の問題を掘り下げてみたいと考えております。

一般演題71題、シンポジウム8題と多くの貴重な、かつ興味ある演題を応募していただき、有難く存じておる次第であります。

さらに、本研究会発足以来のユニークな企画として、HLA 班 (班長：生越喬二氏)

が設けられており、毎回、1年間を通じての会員同士の共同研究の成果が班長から報告されますが、かかる分野での研究の発展は本研究会発足の趣旨にもかなっており、研究会の発展に大いに貢献するものと期待されます。

本研究会を実りある研究会にしたいと思っております。ご多用のなかご司会、ならびに座長の労をお願いしました先生方には深謝致しますとともに、格別のご高配を賜わりたく存じます。

**第5回 日本癌病態治療研究会**

当番世話人：馬場正三（浜松医科大学第二外科）

開催日：平成8年5月10日

場所：グランドホテル浜松

連絡先および事務担当

〒431-31 浜松市半田町3600

浜松医科大学第二外科

第5回日本癌病態治療研究会

当番世話人 馬場正三

TEL 053-435-2279 FAX 053-435-2273